

ASK13 購入スピノフストーリー

1981年卒 青木 直

卒業以来 40 年近くたちましたが、この間木曾川滑空場へ足を運んだのは 3 回ほど(直近でも 30 年近く前)の不義理者であります。

私にはこの翔友に寄稿される皆さんと違い、グライダー操縦技術とか大空の魅力をお伝え出来るような経歴は残念ながらありません。

部活の思い出として最初に浮かぶのが新人合宿、それも地上勤務でヘロヘロになるまで走り回ったことや宿舎での卵かけご飯がうまかったなどという低次元の OB です。

先日当誌編集の真部さんから突然(将に 40 年ぶり)お電話をいただき、そのご趣旨がこの寄稿依頼であると伺ったときは大変に驚きました。何で俺なの、他にもっといるでしょう?とお断りをしたかったところですが「青木君は“違う経験”をしているからそれを書け」と、仰る。

そう言われると、そっちなのかあとも思い、押しに弱いと懐かしさの勢いでお受けしてしまいました。

1 年生の秋くらいだと思いますが、幹部の方から「お前、体育会本部で手伝いをしてこい、週に 2 回くらい昼頃本部に顔を出していればいいから」とご下命を受けたのが始まり。

何をやるのかもよくわからず(おそらく先輩も)お気楽モードで左程深く考えず通い始めたわけですが、実際は聞いていたのとは大違い、それに私同様に各部から集められた 1 年生は空手部・剣道部・アメリカンフットボール部と大柄な猛者っぽい奴ばかり。

本部の先輩方といえば少林寺・合気道等の武闘系がズラリ、そしてみんな学ラン・・・。

当時「嗚呼!!花の応援団」なんて漫画がありましたが、その世界観がリアルに存在しており、すぐにここは絶対に俺のいるべき場所じゃないと直感いたしました。

即「先輩!話が全然違います、週 2 どころか毎日来いと言われているし、電話番から先輩の雑用まで、当たり前のようにやらされています。問答無用の絶対服従に加えてみんな大酒飲み、毎度つき合わされてフラフラです。何とか辞められませんか」等とお願いしましたが、言下に却下され「まあそう言わずにもう少し頑張れや」というムード。

実際のところ当時当部は老朽化した萩原式 H23C の後継機購入のため全員でクラブバイトし資金確保に邁進していたのですが、それだけでは足りないため大学からの補助が必須、何としてもこれを引き出すために、大学の学友会組織でもある体育会への貢献も必要との思惑もあった由。

いわゆる人身御供・・・だから補助金貰うまで辞められない。

程なく体育会全体のオリエンテーション、フレッシュマンキャンプ、リーダーズキャンプ、大学の学生課の方の各部夏季合宿視察アテンド、立教大学との各部定期戦のセット等々と毎年次々と繰り返される行事に忙殺され始め、組み込まれて埋もれて行ってしまった結果、こちらでもしがらみが出来てしまい、抜けるどころではなく卒業まで体育会本部にも籍を置くことになってしまいました。

おかげで実家の航空部での活動は極めて貧弱、違う意味で特別扱いをしてもらった結果、合宿も

時々の参加となってしまう、部の皆さんにはずいぶん迷惑をかけてしまいました。

みんなが合宿で技量を磨き頑張っている頃、私はこんな「違う経験」をしていたのだと今更ではありませんが是非ともご理解ください。

そんな「違う経験」の極めつけは西京極球場での同立戦でエールを切ったこと。

そもそもは同立戦という一大イベントを前に諸般事情で応援団が活動を中止するという大事件があったのが発端、理不尽にも代わりに体育会本部で穴を埋めるとなったのです。

なんと結局、花の応援団です。

スタンドの一番前の応援台に上がり、すり鉢の底から見上げるように観客席を見渡すと、これがまたものすごい熱気と圧迫感、何千人の観客席のどこを見てもみんな私を見ているという完全に追い詰められた状況は、恥ずかしいとかの人間的な感情を飛び越えた異次元の恐怖そのもの。

足がガクガク震えてスタンドマイクも一緒に揺れるという状態ではまともなエールどころではなくボロボロです、とにかく早く終わってくれとばかり願っておりましたが、対戦は非情にも第3戦までもつれてしまい、挙句は1勝2敗……。学内に大恥さらしてまでやったのに……。完全な黒歴史です。

それから同志社スポーツ新聞の「アトム」は御存知でしょうか、実はこの第一号は私が発行しました。文案を考え手書きした物をデュプロの機械で印刷し、本部の人間で手分けして大学正門の前で配りました。

ガリ版的な拙い手作り新聞でしたが、みんな興味を持って喜んで受け取ってくれたのが嬉しかった

たです、確か相撲部の藤沢和穂さんが学生横綱になった時の速報であったと思います。

その後は本部の中に編集局を置き、一般学生から編集員の募集をしたり、広告を取るようになるなど次第に本格化して号を重ねて行きました。今は独立した編集局があって「アトム」は立派に続いているらしくこれも嬉しいです。

そのような日々の中、航空部員全員の並々ならぬ努力が実ってついに ASK13 の購入が私の在学中に実現しました。

直接的には何の役にも立っていない私でしたが、一応裏ミッションはクリア。

また、皆さんの温かいご配慮で、新機体お披露目式の司会進行をさせていただきました。

大役をいただき本当に感謝しております、とても晴れがましい思い出です。

ただ、この ASK13 に私は一度も搭乗することはなく卒業しました、まあ人生こうゆうものでしょうか。

航空部員としての本筋ではありませんでしたが、こうして思い返せることが色々あるというのは、とても有難いことであると思っています。

余談ですが、実は私は引きが強いらしく、卒業後も「違う経験」をしております。

私は銀行へ就職したのですが、白昼銀行強盗に入られ、人質になった経験を持っております。ピストル1丁、ナイフ8本、ダイナマイトたくさんフル装備強盗犯でした。

今時銀行強盗なんて珍しく、この経験をしている人はまずいないのではないかと思います。

最後に航空部 OBらしい(?)お話。

数年前グアム島へ行った時にセスナの体験飛行をやってきました。

怖がって嫌がる女房を「同乗者はタダだから」と説得し無理やり後部座席に押し込んでスタート、40年ぶりの操縦桿でしたが横に乗ったパイロットさんの指示通りエンジン回転数を上げながら離陸、「ではあの灯台まで行きましょう。」「海まで出ましょう。」「飛行場まで戻りましょう。」と言われるまま緩旋回を繰り返しながらたどり着き、無事着陸。

パイロットさんから「私、全然さわっていませんよ、上手ですね」とお褒めをいただき、当然商売上のスーパーリップサービスであるのは分かりつつも、ドヤ顔で女房を振り返った私でした。

「だから学生時代にグライダー乗っていたと、言っていたでしょ。これで信じた?」

以上

体躯会本部 4年生の頃 前列右から 2人目です

